

●一斉学習
■同時進行型

実践タイトル 学習のねらいをつかみ、確かな技能を育てる

本時のねらい

文字の中心について理解するとともに、中心に気をつけて書くことができるようになる。そのために、配列の感覚を意識できるように教材を工夫するとともに、指導者用デジタル教科書の動画を活用しながら字形や間隔、配列の様子を穂先の動き方で確認し、学習のねらいをとらえた書き方ができるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

「中心をそろえて書く」という学習のねらいから、中心をそろえることの大切さや毛筆で実際に書くためには、具体的な事象の提示が必要であると考え、指導者用デジタル教科書や自作教材を工夫するとともに、中心線を書き込むなどの活動のために活用した。

指導者用
デジタル教科書

指導者用デジタル教科書にある実際に書き進める画像の中から「墨・真上」「濃淡・真上」などを見て、筆の動かし方や中心をそろえる工夫などを確認する。また、児童が自身の課題に合わせて操作しながら筆の進め方を確認できるようにした。

参考にしてほしいポイント

書写(毛筆)の活動は電子黒板と指導者用デジタル教科書のよさを効果的に活用しながら学習活動を進めることができる。学習課題をつかむための工夫とともに、これから実際に書こうとする文字について筆の動かし方や筆を入れる位置や強さなどを確認し、どのように書き進めていけばよいのかを児童が自分なりに見通しをもつことができるからである。手本を見るだけでは知ることができなかったことについて児童は気付くことができる。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等	
本時の展開	0 導入	<ul style="list-style-type: none"> ○「火山」を試し書きする。 ○文字の中心に気をつけて書くことの大切さを理解する。 ・「木」「実」「答」「具」などの文字を用いて、文字の中心をとらえる。 ○「火山」について、それぞれの字形や配列を意識しながら中心を考える。 ・ 試し書きした文字を中心をそろえて書くことから見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板 ・ 自作教材(中心がそろっていない「火山」から、文字の中心を意識した配列となるよう文字を移動したり、中心線を書き込むことができるようにし、児童と共に考えながら操作する)(写真1)
	15 展開	<ul style="list-style-type: none"> ○文字の中心、配列に気をつけて「火山」を練習する。 ・ 指導者用デジタル教科書を活用しながら、書き順・筆の進め方、中心をそろえて各ポイントを確認する。 ○まとめ書きをする。 ・ 練習の文字を見直し、自分の課題を意識しながらまとめ書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板 ・ 指導者用デジタル教科書(「墨・真上」「濃淡・真上」などを見て、筆の動かし方や中心をそろえる工夫などを確認する。また、児童が自身の課題に合わせて操作しながら確認できるようにする)(写真2)
	35 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを生かして書くことができたか振り返る。 ・ 試し書きとまとめ書きを比べる。 ・ 中心や配列を意識して書くことのよさを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板 ・ 実物投影機 電子黒板に作品を取り込み、中心線を書くなどして中心がそろっているか確認する。(写真3)
45			



写真1: 文字を移動し、中心線を書き込む



写真2: デジタル教科書を各自確認する



写真3: 作品を電子黒板に取り込む

児童生徒の反応

中心に気をつけて書くことが文字の形を整え、文字を安定させることなどに気付くことができ、一人ひとりがこのことを意識しながら練習することができた。学習のまとめで全員のまとめ書きを黒板に掲示してみたが、一人ひとりが中心を意識しながら書いていることが確認できた。学習課題を意識し、意欲的に取り組んでいた。

活用効果

評価の観点	言語についての知識・理解・技能
具体的変容	文字の中心や配列を意識して書くようになるとともに、筆の動かし方や筆を入れる位置や強さなどのについてもデジタル教材の画像から理解し、実際に心がけることによって十分な変容が見られた。

実践の手応え

児童が「中心に気をつけて」という課題を意識しながら意欲的に取り組み、自分なりの考えを互いに発表しあいながら進められたことや書写としての技能面でも十分に変容し、運筆等にも向上が見られた。各教科の学習活動においても指導者用デジタル教科書のよさを活かしながら学習活動を工夫し、児童の理解の確実さと学習意欲の向上を目指して活用を進めていきたい。